

科目名		音声障害			授業の種類	演習	講師名		
授業回数	15回	時間数	30時間	(1単位)	配当学年・時期	言語聴覚士科3年		必修・選択	必修
〔授業の目的・ねらい〕									
音声障害の種類と内容、検査法、および治療・訓練の進め方とその方法を学び理解する。									
〔授業全体の内容の概要〕									
音声障害の基礎と臨床的技術を理解し手技の獲得を身につけて定着させる。臨床理解の為に簡単な文献抄読を試み、また模型や視聴覚教材を用いた授業で理論に基づいた検査や治療法について学ぶ理解する。									
〔講師の実務経験〕									
〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕									
音声障害に必要な喉頭の解剖生理および臨床技能と基本的知識を理解できる。									
回数	講義内容								
1	音声障害について障害の考え方を理解する								
2	頭部解剖が理解できる								
3	喉頭の軟骨が理解できる								
4	頭部の筋肉が理解できる								
5	咽喉頭腔の解剖が理解できる								
6	喉頭の機能が理解できる								
7	音声障害の評価と訓練概要①が理解できる								
8	器質性音声障害について理解できる								
9	無喉頭音声について①が理解できる								
10	無喉頭音声について②が理解できる								
11	音声障害の検査法(喉頭ファイバースコープ、喉頭鏡)								
12	音声障害の検査法(GRBAS、音響分析)が理解できる								
13	機能的音声障害総論(定義、分類)が理解できる								
14	機能的音声障害総論(喉頭所見)が理解できる								
15	音声治療法の実践が理解できる								
【 準備学習・時間外学習 】									
【 使用テキスト 】									
書籍名					著者名		出版社		
言語聴覚療法シリーズ 14 改訂 音声障害					荻安 誠/城本 修		建帛社		
【 単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など） 】									
試験の結果を100点満点として成績を評価する。試験は定期試験のみ実施とし、60点以上の場合に科目を認定する。									